

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名 読み方を工夫して音読発表をしよう「かさこじぞう」

2 単元の目標

○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 【知識及び技能(1)ク】

○場面の様子に着目して、登場人物の様子を具体的に想像することができる。

【思考力・判断力・表現力等C読むこと(1)エ】

○場面や登場人物の具体的な様子が伝わるように音読を工夫しようとする。

【学びに向かう力・人間性等】

3 評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (1)ク	場面の様子に着目して、登場人物の表情や口調、行動の理由を想像している。(1)エ	場面や登場人物の具体的な様子が伝わるように音読を工夫しようとしている。

4 単元について

(1) 本単元で扱う言語活動と教材について

本単元では、新学習指導要領C読むこと(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を達成するべく、「読み方を工夫して音読発表をする」という言語活動を位置付けた。音読発表を目指して様々な音読の工夫を試みる中で、教材文に書かれた情景や人物の様子を想像できるよう学習活動を展開していく。音読は授業や家庭学習で日々取り組んでいる、児童にとってなじみ深い言語活動である。しかしながら、児童は大きな声ですらすらと読むことにだけ注意し、言葉のもつ意味や文章の内容を読み取ることは意識していない。音読を発表する場を設けることで、相手に伝わるように読むのだということを自覚し、意欲的に学習を進めることができるものと期待する。

本単元の教材「かさこじぞう」は、昔話である。昔話はもともと口承文芸であったことから、この教材文にも語りのもつ独特の口調や言い回しなどが残されている。何度も繰り返し声に出して読むことで作品の良さを味わうことができ、内容の理解も進むものと考え。物語の舞台は真冬の農村、正月準備をする大晦日である。大人からすればいかにも日本の昔話らしい設定であると感じる一方、現代の日本とはかけ離れた暮らしぶりも数多く見られ、児童からすれば想像しづらい場面や登場人物の行動も少なくないように思う。児童が物語の世界を具体的に想像し、読み浸ることができるよう指導・支援を配慮していきたい。始めから終わりまで何度も声に出して読み、じいさまとばあさまの人を思いやる心を読み取らせたい。合わせて、現代ではあまり使われない道具の名前や動詞などを語彙として獲得していくことで、場面や登場人物の様子をより具体的に想像できるようにしたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元の学習活動を通じて、子どもたちに場面や登場人物の様子を具体的に想像する力を身に付けさせたい。

ある場面一つだけを切り取って読み取るのではなく、場面と場面を時系列に沿ったり登場人物ごとに着目させたりして関連付け、物語の内容をより深く読み取ることができるようにしたい。たとえば、『かさこじぞう』にはじいさまがおじぞうさまの頭にすげがさや自分のかぶっていた手ぬぐいをかぶせる場面がある。その場面からもじいさまの優しい人柄を感じることはできるが、それより前の段落を読むと、すげがさは「じいさまとばあさまがもちこを買うために作ったもの」であることが書かれている。また、かさが足りなくなったときには、「冬の雪原の寒さから自分の顔を守っていた手ぬぐい」さえもおじぞうさまにかぶせている。これらの場面を関連付けることで、「大切なすげがさを、おじぞうさまのためにかぶせている」「自分の身を顧みずにおじぞうさまのことを思いやっている」というじいさまの優しさをより強く感じ取ることができるようになるだろう。

これは、新学習指導要領C読むこと(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を達成することにつながる。内容の大体が読み取れていても、表面的な浅い文章理解では肝心なところで読み違いをしてしまうことがある。登場人物の行動と根拠となる箇所を結び付け、物語の様子が具体的に目に浮かぶような深い文章理解ができるようにしていきたい。

(3) (1)と(2)の基盤となる言語環境や継続的な取組

場面の様子に着目して登場人物の様子を具体的に想像するためには、叙述を正確に理解することが必要不可欠である。そこで、本単元の学習活動に関連して次の二つのことを重点的に指導したい。

一つ目は、音読の視点の変化である。児童は現在も音読学習に日常的に取り組んでいるが、今までよりも相手に伝わる音読をするための視点を加えて音読を見直せるようにしたい。これまで音読で意識してきたことは「間違えないように」「大きな声で」「ゆっくりと」読むことが主である。文を声に出して読む上でいずれも大切な視点ではあるが、本単元では物語を音読する際に「登場人物の気持ち」を反映させていけるようにしたい。「登場人物の気持ち」を考えるためには、本文から登場人物の行動を読み取ること、その上で「どうしてその行動をとったのか」を想像し、その感情を音声に乗せて表現することが必要になる。例えば、嬉しい・楽しいといったプラスの感情であれば「大きな声で読む。」「速い読み方をする。」といったことである。従来の音読では、文字を音声にする技能に意識が向いていたが、「登場人物の気持ち」を音声にする技能を鍛えていくことで物語の文章理解が深まっていくと考える。

二つ目は、語彙の獲得である。『かさこじぞう』では、児童になじみのない言葉が数多く登場する。「もちこ」「すげがさ」などといったものの名前を挿絵や写真付きで紹介したり、「見回す」「とんぼりとんぼり」などの動詞を実際に動作化したりして、意味内容を理解して語彙を獲得できるようにしたい。語彙が広がることで、登場人物や場面の様子をより具体的に想像することができると考える。

5 単元の指導計画（10時間扱い）

次	時	学習内容と活動	指導や支援の手立て（◇評価）
第一次	1	<p>○学習の見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2種類の音読を聞き比べ、音読の工夫のよさを感じ取る。 ・音読の工夫をするために、どのような学習をしていけばよいか考える。 ・単元の最後に音読発表をするための学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読の工夫に気付くことができるよう、平坦な音読と抑揚のついた音読の2種類を聞かせる。 ◇文章の内容と音読の表現が関連していることに気付こうとする。 <p style="text-align: right;">＜知識及び技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇見通しをもって単元の学習に取り組もうとする。＜学びに向かう力・人間性等＞
	2	<p>○じいさまとばあさまのくらしを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読して二人のくらしのようすや昔の人のくらしのようすについて読み取る。 ・読み取った内容から登場人物の気持ちとそれに合った音読の工夫を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の様子を具体的にとらえられるよう、ワークシートを用いて読み取った内容を整理する。 ◇昔話に出てくる言葉を理解している。 <p style="text-align: right;">＜知識及び技能＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇じいさまとばあさまの苦労について理解している。 <p style="text-align: right;">＜知識及び技能＞</p>
第二次	3 本時	<p>○じいさまのせりふや行動から、どんな気持ちかを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じいさまのせりふや行動を読み取り、そのときの気持ちと気持ちに合った音読の工夫を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の様子を具体的にとらえられるよう、ワークシートを用いて読み取った内容を整理する。 ・気持ちから音読の工夫を考え、ワークシートに記録する。 ◇登場人物の様子を具体的に想像し、読み方を工夫している。 <p style="text-align: right;">＜思考力・判断力・表現力等＞</p>
	4	<p>○じいさまとばあさまのせりふや行動から、どんな気持ちかを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じいさま・ばあさまのせりふや行動を読み取り、そのときの気持ちと気持ちに合った音読の工夫を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の様子を具体的にとらえられるよう、ワークシートを用いて読み取った内容を整理する。 ・気持ちから音読の工夫を考え、ワークシートに記録する。 ◇登場人物の様子を具体的に想像し、読み方を工夫している。 <p style="text-align: right;">＜思考力・判断力・表現力等＞</p>
	5	<p>○学習した中から自分の気に入った場面を選び、音読の仕方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気に入った場面での登場人物の気持ちと、気持ちに合った読み方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習記録をもとに考える。 ・気持ちに合った音読の工夫を考えるよう、前時までの学習を想起させる。 ◇音読を繰り返して、自分の気に入った場

			面を選んでいる。 ＜学びに向かう力・人間性等＞
	6	○気に入った場面での登場人物の気持ちと、気持ちに合った読み方を発表する。 ・友達同士で登場人物の気持ちと読み方を発表する。	・これまでに書いてきたワークシートをもとに気に入った場面を選び、自分の考えた音読の工夫を発表する。 ◇場面や登場人物の様子に合うように、読み方を工夫している。 ＜思考力・判断力・表現力等＞
	7	○同じ場面を選んだ友達とグループを作り、どんな工夫をしたらよいか話し合う。 ・場面の様子をわかりやすく伝えるために、どんな工夫をしたらよいか話し合う。	・これまでに書いてきたワークシートをもとに、登場人物の気持ちに合った音読の工夫を考えていく。 ◇音読を繰り返して、気に入った場面の音読の工夫について話し合っている。 ＜学びに向かう力・人間性等＞
	8	○グループごとに工夫した音読を練習する。 ・場面の様子をわかりやすく伝えるために、音読の工夫ができているか確認し合いながら練習する。	・これまでの読み取りを生かした工夫ができるよう、登場人物の気持ちと読み方を結び付けられるよう促す。 ◇場面や登場人物の様子に合うように、読み方を工夫している。 ＜思考力・判断力・表現力等＞
第 三 次	9	○発表の練習をする。 ・自分の工夫とその理由を伝え、音読を発表する。	・取り入れられそうな工夫を考えながら聞くように助言する。 ◇場面や登場人物の様子に合うように、読み方を工夫している。 ＜思考力・判断力・表現力等＞
	朝 学 習	○音読発表をする。 ・自分の考えた工夫で音読をする。	・いつでも読み方を確認できるよう、教科書を手元に置いておく。 ◇場面や登場人物の様子に合うように、読み方を工夫している。 ＜思考力・判断力・表現力等＞
	10	○振り返りをする。 ・物語文は、登場人物の気持ちに合わせた読み方をすると相手によりよく伝わることを確かめ、今後の音読に生かしていこうとする。	・1年生の反応を想起させ、音読を工夫したことによるよさを実感させる。 ◇文章の内容に合わせ、これからも音読を工夫しようとしている。 ＜学びに向かう力・人間性等＞

6 視点について

視点1【ねらいを達成するための主体的に取り組む工夫】

○相手意識の明確化による意欲喚起

本学級の児童は、音読を授業や家庭学習で日常的に行っている。しかし、目的が曖昧なため、内容を深く読み取る段階まで達していない。そこで、音読発表という言語活動を設定することで、児童の意欲を高め、自然とかさこじぞうの読みの世界に入れるように考えた。発表する相手は、1年生の児童に設定する。物語に初めて出会う相手に作品の魅力をわかりやすく伝えられるよう、内容をよく理解していくという目的意識を強く持つことができると期待する。音読発表をすることを学習計画の段階で設定することで、児童への意欲喚起につなげたい。

視点2【「わかる」「できる」ための授業づくりの工夫】

○語彙学習の工夫

教材文「かさこじぞう」は昔話であり、児童にとってなじみのない習慣や道具などの言葉が多く出てくる。単語をただ声に出して読むだけではそれが何であるのか理解できず、そのために物語の内容理解も不十分になるおそれがある。そこで、語彙学習の手立てを工夫して行うことが「わかる」ために効果的だと考えた。道具や風景など形のあるものについては写真や挿絵と合わせて掲示する、動詞は動作化するなどして、新しく出てきた言葉を身に付けられるようにしたい。

○音読の記号

聞き手に伝わる音読をするためには、文章の内容を正しく理解し、読み方の工夫を意識して繰り返し練習することが欠かせない。そこで、教科書の教材文をそのまま使用するよりも、読み取りによる内容理解を反映させた音読の記号を書き込んで使用していくことが「できる」ようにする上で効果的だと考えた。教科書の余白に、内容の理解をもとにした音読の工夫を書き込むようにする。具体的には、声の強弱や間を空ける箇所の注意書き、喜びや楽しさなどのプラスの感情に赤の傍線、悲しみや辛さなどマイナスの感情に青の傍線などを書き込む。注意しなければならない箇所が視覚的にわかりやすくなるように書き込みをして、児童一人一人がそれぞれ練習しやすくなるようにする。内容の理解が深まることで音読の記号がつき、音読の記号をつけることによって音読の技法がすぐに確認できるようになり、聞き手に伝わる音読ができるようになっていくものと考えている。

視点3【次の学びにつなげる振り返りの工夫】

○授業後の自己評価による学習成果の自覚

毎時間の学習の最後に、それぞれの時間の学習問題に沿った振り返りを行い、◎・○・△の三段階で明確に自己評価をする。この手立てによって児童は自分の成長の様子を具体的に理解することができ、次時への学習意欲が高まると期待する。

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

○登場人物の様子を具体的に想像し、読み方を工夫することができる。

＜思考力・判断力・表現力等＞

(2) 展開 (3 / 10)

学習活動と内容	教師の支援・評価 (◇)
<p>1 前時までの学習を確認する。</p> <p>2 今日のめあてを確認する。</p>	<p>○単元の学習計画を示し、単元のめあてと本時のめあてを確認する。</p>
<p>じいさまのしたことから気持ちを読み取り、読み方を工夫しよう。</p>	
<p>3 本文の内容を読む。</p> <p>① 場面の様子、じいさまの行動、せりふを読み取る。</p> <p>② じいさまの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町を出るとき …かさがかうれなくてもちが買えず 悲しい、ばあさまにもうしわけない、 お正月を迎えられない。 ・じぞうさまの元をはなれるとき …じぞうさまを助けられてよかった、 もちは買えなかったけどかさの おかげでじぞうさまを助けてあげら れた、よいことができてよかった。 <p>4 心に残った部分を選び、読み取りをもとに工夫を考える。</p> <p>「じいさまがじぞうさまを助けているところは、じぞうさまの寒さが大変だって思ってるから、急いでいる感じで読もう。」</p> <p>「これでええ、これでええ。」のせりふは、じぞうさまを助けられて安心しているから、ゆっくり大きな声で読もう。」</p>	<p>○ワークシートを使って着目させたい言葉に気づけるようにする。</p> <p>○独特の単語について動作化したり、資料を提示して説明したりすることにより、場面の様子を具体的にとらえられるようにする。</p> <p>○じいさまの気持ちを折れ線グラフに表して、気持ちの移り変わっていく様子をとらえやすくする。じいさまの気持ちを元にして音読の工夫を考えていけるようにする。</p> <p>○音読の工夫の仕方（声の大きさ、読む速さ、気持ち、）の掲示をしておき、工夫を考えたときの手がかりとして取り入れられるようにする。</p> <p>◇登場人物の様子を具体的に想像し、読み方を工夫している。 【思考力・判断力・表現力】</p>

<p>5 工夫した音読ができているか、聞き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人一組で心に残った場面、想像した登場人物の気持ち、音読を発表し合う。 ・工夫の上手な児童の発表を聞く。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちを考えて音読を工夫できたかどうか振り返る。 ・次回、ばあさましたことから気持ちと音読の工夫を考えていくことを予告する。 	<p>○読み取った登場人物の気持ちと音読の工夫が関連づけられているかを注意して聞くように助言する。</p> <p>○上手な工夫を自分の音読に取り入れられるよう考えて聞くよう促す。</p>
---	---